

広報

かわごえ環境ネット

2023年5・6月号 No.191

コロナ禍前に福田の生きもの育む田んぼで、みんなで力を合わせて行った田植えの様です。かわごえ里山イニシアチブでは、環境にやさしい農法で人と生きもののにぎわいを取り戻す活動を行っています。ポストコロナ禍で、田んぼでの本来の活動が本格化し、自然環境を取り戻す活動ができることを願っています。(増田純一)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

かわごえ環境ネットは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

2-3:【報告】第21回かわごえ環境フォーラム(2月25日開催)

4:【コラム】社会と環境について思うこと(23)『私の体感から地球温暖化を考える』

自然を訪ねて(9)『再加入して1年を想う』

5:【参加者募集】「川越市内の川の一斉水質調査」(6月4日)、「夏の郊外クリーン活動」(7月17日)

6:かわごえ環境ネットからのお知らせ

7:会員からのお知らせ

8:イベントカレンダー(2023年5月1日~6月30日)

残したい川越の風景(9) 生きもの育む福田の田んぼでの田植え(2019年6月1日撮影)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

【報告】第21回かわごえ環境フォーラム(2月25日開催)

開催概要

2月25日(土) 9:30-16:30 にウェスタ川越活動室1・2において、「第21回かわごえ環境フォーラム」を開催しました。コロナ禍に入った2020年は中止、2021年・2022年は規模縮小による開催となっていました。今回は2019年以来4年ぶりに参加者によるワークショップを開催できました。午前の部オ

ンライン参加を含む)、午後の部を合わせて延べ約150名の参加者でした。

また、この行事に合わせて発行を重ねてきた「かわごえ環境活動報告集」を初めてフルカラー印刷で発行しました。なお、報告集のPDF版を右記QRコードのホームページに掲載しています。

本行事の開催にあたっては、川越市の後援、パイオニア株式会社川越事業

所、武州ガス株式会社、株式会社環境総合研究所、初雁興業株式会社の4社の協賛をいただきました。毎回ご協賛いただきまことにありがとうございます。(小瀬博之)



かわごえ環境フォーラム
(<https://forum.kawagoekankyo.net>)

午前の部 かわごえ環境活動報告会

午前の部「かわごえ環境活動報告会」では、8件の報告がありました。

(1) ふくはら子どもエコクラブ「結びつく林の活動と身近なエコ活動」

発足から12年目。小学生が主メンバーで、地元の循環型農業や雑木林などの自然環境を守ることが基本活動。農業体験・雑木林の生き物調査・県の「こどもエコフェスティバル」(3年ぶり開催)参加報告・SDGs勉強会などたくさんの活動を報告いただきました。

(2) 増田純一(NPO法人かわごえ里山イニシアチブ)「生物多様性有機農法が土壌の健全化と地球温暖化防止に貢献」

生物多様性有機農法による川越市福田の田んぼの土壌バクテリアは56種類の豊かな土壌菌で構成され、窒素固定するバクテリアも含まれていることがわかった。有機農法は土壌を健全化し、温室効果ガス亜酸化窒素(N₂O)の原因となる化学肥料を減らし、地球温暖化防止にも貢献すること。

(3) 福原時夫(埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部)「キタミソウの歴史と分布」

2018年11月11日に伊佐沼で発見されたキタミソウ(絶滅危惧Ⅱ類:環境省)の調査・生育状況の報告、並びに埼玉県内での新たな自生地発見箇所や歴史

について紹介。今後も行政・他団体との連携を図って埼玉県内にとどまることなく継続的に調査を行っていくとのこと。

(4) 丸岡巧美・成川正行・長谷川清(環境製品評価研究協会)「太陽光発電による蓄電と暮らしの節電」

CO₂削減が期待できる太陽光発電パネルからの電力を蓄電池に蓄え、電化製品への活用方法や節電の検証実験の紹介。

(5) 丹優介(東洋大学総合情報学部)「ボランティア活動から見るプラスチック問題の現状と課題」

文献調査・実地調査・アンケート調査を行い、プラスチック問題の現状を明らかにした。プラスチックごみは捨てることも大切だが、生産者・消費者ともにプラスチック問題への意識を高め、環境に配慮した取組を増やし、環境中にごみを放棄しないことが大切であるとの結論。

(6) 関沙耶香(東洋大学総合情報学部)「川越市における防災及び防災情報の現状と課題」

市区町村単位での防災情報の発信及び意識、情報量の差が生じていることに焦点を当て、川越市の防災情報の現状と課題を調査。情報の受け手側のニーズや用途に合わせて活用できるように、多言語対応や高齢者や子どもにも理解できる情報提供が求められるとの結論。

(7) 増田知久(かわごえ環境ネット)「社会環境部会の活動報告」

「2022森フェス in 川越」及び本会社会環境部会の活動概要の報告。

(8) 賀登環(かわごえ環境ネット)「自然環境部会の活動報告」

本会自然環境部会の活動概要の報告及び環境保全の現状と課題の投げかけ。(飯島希)



(1) ふくはら子どもエコクラブ



(2) 増田純一さん



(4) 丸岡さん・成川さん・長谷川さん



(5) 丹さん



(6) 関さん



(7) 増田知久



(8) 賀登環

(3) 福原さんを撮影した写真は見つかりませんでした。申しわけありません。

午後の部 ワークショップ「若者×環境 = 暮らしに根ざした未来」



日本若者協議会「日本版気候若者会議」



Climate Youth Japan



Fridays For Future Saitama

For Future Saitamaの3団体をゲストにお招きし、各団体の活動内

容を発表いただいた後、参加者とともに6つ(A~F)に分かれてグループワークを行いました。

容を発表いただいた後、参加者とともに6つ(A~F)に分かれてグループワークを行いました。

グループワークのテーマ

2035年(2050年脱炭素を見据えて)にどんな未来になってほしいか

各グループの発表

Aグループ

自然と歴史と文化の街という川越を、「新しい」文化と調和した未来にしていくという発想。

緑を中心とした文化、例えば耕作地

面積50%に向けて田畑に多くの人に関わる仕組みを作る。そのためには、計画を作るときにいろんな人が参加すること。そうすることで、いろんな緑×都市生活=新しい文化になるのではないか。

B グループ

脱炭素に向けては、便利さを保って二酸化炭素を減らすという矛盾とも言えることの両立化、学校給食のコンポスト化やガードレールの木質化といったアイデアも含めて、忙しすぎない街づくりをしてはどうか。それには、異年齢が話す場、憩う場を作ったり、自ら行動する人が育ち、モラル向上にもなる市民会議を設置するのがいい。

C グループ

川越を自立・自給の社会にする。川越のエネルギー・食・教育・産業全体が自立し、川越らしさのある街づくりが重要。

川越らしさ、川越の魅力ある資源循環のあり方とはどういったことがあるか。それは、川越の自然環境の充実、特に中心部に少ない木を増やしたり体験型エコツーリズム、自転車道の整備や、幼小・中学で土地にあった地域の行事を年中行事化し魅力ある人づくりもする。また、ゆるキャラにもっと力を入れてほしい。ゆるキャラを含め若者を呼び込む魅力の発信の工夫も必要。

D グループ

今の若者の中には、未来をあきらめている学生もいる。植物の名前も知らないし、体験が少ない。これまでの資本主義がゆえの金儲けや効率化がコンクリート化や農薬の多用になっている。農業の担い手不足等、人手不足だが、子ども・若者らにまず興味を持ってもらうところから始め、地域の人手不足は地域のコミュニティで人を育て解決していくよう、コミュニティの強さを育む。

E グループ

さつまいもシティをつくりたい。小学校でも芋ほりを毎年の体験学習にする。そしてさつまいもの日を制定する。また、オーガニック給食にして、学校でもオーガニック野菜をつくる。そうすれば、学校が大人と子どもの交流の場になり、みんな話して考える場にもなる。

他にも、どこでもドリンクバーがある街になってほしい。おいしい水やスポーツドリンクをどこでも無料で飲めるようにしてくれたらうれしい(小3生の声)。そしてアレルギーのない世界になってほ

しい。

F グループ

大学生の紙ストローは飲みづらいという発言から議論が始まった。生物分解する草ストローが開発されているが、そもそも使い捨てのための改良技術は果たしてエコなのだろうか。例えば、冷房も設定温度が強すぎで寒い。これはエネルギーの使いすぎ。包装も過剰包装を見かける。

当たり前になっている日常を疑問に思うことからエコの議論を深め、なぜそれ(エネルギーの過剰使用など)が起こっているのかを見つめたところ、根本的な問題は、“意識”なのではないだろうかという結論に行き着いた。意識変革に向けて、SNSで発信し議論したり(真偽のリテラシーも重要)、環境教育が大切。

全体シェア

2035年の望む未来像に対して、各グループから出た未来像は、全体像から個々のアイデアだったり、一方で問題化した現状の課題分析や事象のさらに奥へと考察を行い、人間の意識の問題という根本問題を浮上させたりと、多種多様な声が出てきました。

2035年の川越の未来像

一言で言えば、「自立・自給の川越」。それは具体的にはどんな川越なのか。

Fグループから出た意識の変革。当たり前のことをまず疑問に思い、それを深掘りし、本当の環境意識とは何かに気づく。変革した環境意識となることで、Bグループのいう便利と両立するCO₂削減の日常にすること、その日常の延長線上に、Aグループのいう新しい文化が川越の文化になるのではないのでしょうか。

また、意識の変革。それは教育の場やコミュニティの場で体験や異年齢交流(B・D・Eグループ)を通して醸成されるのではないのでしょうか。直して使う、自分で作るという以前には当たり前だった意識や技術の継承、幼少期から興味を持ち、体験を続けるうちに次の担い手の育成にもつながります。

そして川越らしさにすぐにもつながるといえば、Eグループからのさつまいもシティづくり。農に親しむきっかけとなり、畑や田んぼ体験へとつながられます。そして最後に、Eグループの小3生の願い、街中どこでもドリンクバーやアレルギーのない世界が実現できたら素敵です!子どもの声を形にできるのは先

人の役目。若者の声を聞いて、経験からの知恵を生かし2035年の川越づくりにむけて議論とアクションをかわごえ環境ネットでは続けていきたいと思います。

2025年には「川越市環境行動計画」が改定されます。望ましい川越の未来像に向けて、2035年までの川越市の取り組む具体的な行動計画を作る作業が今年度(2023年度)から始まります。このかわごえ環境フォーラム午後の部のワークショップで話し合われた声も参考にして話し合いを進めていきたいと思しますので、今後もみなさまご注目ください。

謝辞

最後に、グループワークでファシリテーターを務めていただきました高澤裕考さん(Aグループ)、小林範子さん(Bグループ)、佐藤真美さん(Cグループ)、高澤日美子さん(Dグループ)、小川夕子さん(Eグループ)、吉田尚平さん(Fグループ)に御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。(飯島希)



Aグループのテーブルとプレゼンテーション



Bグループのテーブルとプレゼンテーション



Cグループのテーブルとプレゼンテーション



Dグループのテーブルとプレゼンテーション



Eグループのテーブルとプレゼンテーション



Fグループのテーブルとプレゼンテーション

【社会環境部会コラム】社会と環境について思うこと (23) 私の体感から地球温暖化を考える

私の住む川越は近年極端な暑さが増え、一方で極端な寒さが減ってきています。月刊かわごえ環境ネット2013年9月号(No.083)「クールスポット」温度差体験から、当時の真夏の温度の状況と省エネ温度計についてです。

投稿の要約

夏の電力需要の最大ピーク時に家庭から地域の涼しいところへ移動することにより、家庭のエアコンの電気使用量を減らすことを目的として、埼玉県が音頭を取ってはじめて「彩の国クールスポット100選」に川越から9箇所が選ばれ、県内では「276箇所」です。社会環境部会では2012年8月8・9日に市内のクールスポット9箇所の温度調査をいたしました。私も8月9日に3箇所の温度差を体験してきましたので紹介します。

体験箇所と温度差

- ①名細八幡神社(湧水) 温度差 3.5℃
14:35 境内入口 33.0℃ 境内 29.5℃
 - ②市民の森1号地内 温度差 2.5℃
14:00 森の入口 33.0℃ 森の中 30.5℃
 - ③仙波東照宮石段 温度差 1.5℃
14:35 境内入口 35.5℃ 境内 34.0℃
- 結果は15℃～35℃までの温度差が見られ、

街中の温度は35℃、郊外は33℃です。

当時の液晶表示の温度計

南海電鉄が地球温暖化防止を考えることで2011年に配った「省エネ温度計」の写真をご覧ください。温度計の数値の最高が34℃です。今となっては信じられないことです。なお、家の中の一番温度が低い北側の玄関で使用中です。

2011年3月11日は忘れもしない「東日本大震災」が起き、福島第一原子力発電所の事故によりメルトダウンや放射能汚染が発生、原子力発電に頼る電力の供給が破綻し、計画停電が実施され、緑のカーテンが推奨されました。

かわごえ環境ネットの武田理事(当時)は、同年4月2日に緑のカーテンの普及のための緊急会議を開催、夏に向けての暑さ対策と電力消費の抑制を訴えました。時宜を得たすばらしい行動力でした。

2011年に配られた省エネ温度計の測れる上限温度は34℃、昨年6月25日の川越駅西口道路上の温度は44℃でした。10年間で約10℃の気温上昇です。

国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が2021年8月に発行した第1作業部会第6

次評価報告書(WGIAR6)では、「1850～1900年から2010～2019年までの人為的な世界平均気温上昇は1.07℃(0.8～1.3℃)である」と述べています。

私の体感やデータでは、2011年8月と昨年6月を比較すると少なくとも5℃以上の気温上昇であると思います。IPCCの報告書とは大きく違います。

気候変動(温暖化)問題で、不都合な真実に目をつぶることなく省エネや資源の節約を個人や国家が行わないと、地球の多くの場所が、暑さ、乾燥、洪水、海水面の上昇などで住めなくなるでしょう。よくない方向に日々向かっていると体感しております。(菊地三生)



名細八幡神社(湧水) 南海電鉄が配布した省エネ温度計(右は部分拡大)



緑のカーテン普及のための緊急会議 ゴーヤの緑のカーテン 2022年6月25日川越駅西口道路上での温度44℃

【自然環境部会コラム】自然を訪ねて(9) 再加入して1年を想う

昨年(2022年2月22日)、17年ぶりにかわごえ環境ネットに再加入しました。4年前に埼玉県生態系保護協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部の支部長になり、組織内外から加入について打診がありました。22年前、かわごえ環境ネット設立当初、生態系保護協会の支部長が環境ネットの理事長に就任し、私に支部長をしてほしいとの依頼がありました。当時50歳の私は、重度の精神障害に見舞われていました。仕事の重圧と自然保護ボランティアの両立がうまくできず、支部長依頼を固辞しました。しかし、支部役員は辞めないで事務局的な裏方の担当をさせていただき、食いつなぎました。そして62歳に発症した癌も克服し、前支部長の体調不良により、4年前の69歳の時にやっと支部長を引き受ける勇気が出ました。

また、幸いしたのは生態系保護協会支部としては脱退しましたが、支部役員2名の方が個人会員として活躍されていました。その方たちからの加入要請や元生態系支部役員をされていて現在理事をされている方やその他の理事からの声掛けもありました。私はありがたいと思っています。しかし、通常の支部活動を担っていただいている3名の方が、環境

ネットに加入すると活動が増えて負担になるのではないかと心配して加入反対でした。私は時間をかけてじっくり話し合い、支部役員が《全会一致》になったら加入しようと辛坊強く話し合いを継続しました。丸2年話し合っていく中で、環境ネットは個人、自然保護団体、事業者、行政の連合体であり、各組織での活動に支障をきたさないということの共通認識に至り、晴れて再加入するに至りました。

1年を振り返り、再加入してたいへんよかったですと実感しています。私が支部長になり、ある理事に「第20回かわごえ環境フォーラム」に「伊佐沼の鳥類調査の報告」を発表していただきたいとの依頼がありました。苦勞をしながら40年間の伊佐沼の野鳥観察データや全国の《ガンカモ調査》等々を調べて資料を作り発表したことで、これまで私が関わってきたボランティアの一区切りの総括ができました。また、2021年環境フォーラムを傍聴してさまざまな活動をしている方々とのつながりができていたことも大きな要因になりました。

この1年、生き物調査、自然環境部会、社会環境部会、総会、クリーン活動等々に参加して大変勉強になり強い刺激を受けました。

また、今年の第21回かわごえ環境フォーラムでは、念願の「キタミソウの歴史と分布」をテーマに発表することができました。特にうれしいのは、3年目にして我が生態系保護協会の3名の支部役員と伊佐沼野鳥保護で連携を取って活動している日本野鳥の会の2名の役員も私の発表及び午後の若者とのワークショップにも参加され、環境ネットが川越以外にも広がっていることを実感しています。(福原時夫)



伊佐沼のキタミソウ調査(2023.3.31撮影)



九十川河口のキタミソウ調査(同日撮影)

【参加者募集】「川越市内の川の一斉水質調査」6月4日(日曜日)実施

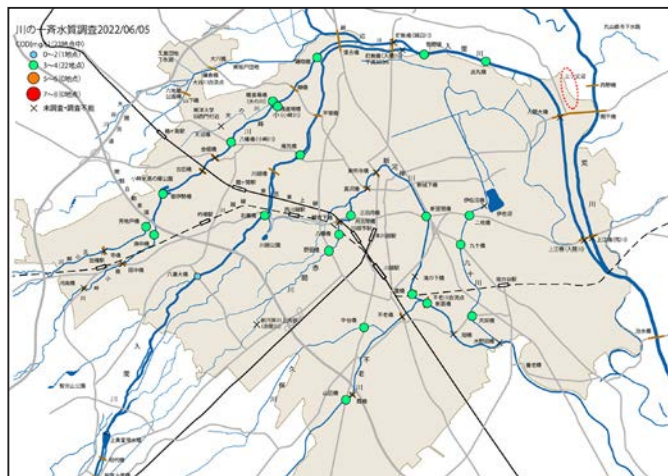
毎年6月第1日曜日に全国で「身近な水環境の全国調査」が行われています。川越市ではかわごえ環境ネットが川越市内の川の一斉水質調査として主に担当していて、今年は6月4日(日)午前に行います。

参加を希望する方は、5月12日(金)の社会環境部会・自然環境部会において参加の旨をお知らせいただくか、5月25日(木)までにかわごえ環境ネット事務局(本紙最終ページに連絡先を掲載)までご連絡ください。

また、本会総会開催前の5月27日(土)9:30-10:00に説明会を開催しますので

総会会場に直接お越しください。

2022年の調査地点(23地点)とCOD(化学的酸素要求量)の結果は地図の通りです。分担を決めて調査ポイントで採水して、水質調査会場(去年は北公民館でした)に持ち寄って簡易キットを使ってCODなどを測定します。



2022年6月5日の川越市内の川の一斉水質調査(COD)結果

【参加者募集】「夏の郊外クリーン活動」7月17日(月曜日・海の日)実施

夏の郊外クリーン活動のお知らせ

かわごえ環境ネットでは年に4回のクリーン活動をしています。多くの方の参加をお待ちしております。

日時 2023年 7月17日(月) 海の日
 行程 9時30分「やすらぎのさと」入口に集合
 (川越市大字小仙波867-1)
 トングとごみ袋を配布後、グループ毎に活動を開始
 11時30分「やすらぎのさと」で分別し解散

参加申込 7月3日(月) 午前10時～ 電話で環境政策課に ☎ 049-224-5866

当日の連絡先 菊地 ☎ 080-5546-2362
 メール kikums@beige.ocn.ne.jp



かわごえ環境ネットでは、春夏秋冬に年4回のクリーン活動をしています。夏は7月17日(月)に活動を行います。多くの方の参加をお待ちしています。

実施概要

日時:7月17日(月・海の日) 9:30-11:30

場所:川越市民聖苑やすらぎのさと(川越市小仙波867-1)

参加申込

7月3日(金) 10:00から電話で環境政策課(Tel.049-224-5866)に連絡

当日の連絡先

かわごえ環境ネット 菊地
 携帯電話番号 080-5546-2362
 E-mail: kikums@beige.ocn.ne.jp

今後の予定

「秋のクリーン活動」は10月7日(土)、「冬の川越 中心市街地 歳末まち美化活動」は12月24日(日)を予定しています。

新訂版『川越の自然』を有料頒布



2021年2月に発行した『新訂版 川越の自然—雑木林・河川・公園・湧水・社寺林を訪ねて—』(A5判、180ページ、フルカラー)を当日有料頒布します。

おわびと訂正

本紙2023年3・4月号(No.190)4ページ【自然環境部会コラム】自然を訪ねて(8)の本文において、「エフデノタイムツ」は「エフデ、タイムツ」の誤りでした。



頒布中



かわごえ環境ネット
 事務局 川越市環境部環境政策課
 ☎ 049-224-5866 (直通)



報告

理事会・事業運営委員会

2月21日(水) 事業運営委員会・理事会

主な議題: ①第21回かわごえ環境フォーラムのゲスト団体の川越事前訪問、謝礼、ワークショップの運営方法、協賛企業へのお礼訪問日時と担当、②事業報告・事業計画のスケジュール、③総会案内と振込用紙は4月に郵送希望者のみ郵送、メールサービス希望者にはメール通知、④ボランティア保険の案内を3月広報に同封して発送、⑤3名の新規入会、⑥霞ヶ関北地区で6月から実施予定の「環境対話カフェ」準備状況の報告、⑦クリーン活動の今後の対応

3月21日(水) 事業運営委員会・理事会

主な議題: ①2022年度事業報告、2023年度事業計画の読み合わせと今後の総会議案書作成スケジュールの確認、②総会終了後に懇親会を屋外で実施することを承認、③会計監査の対応の確認、④腕章の発注、⑤「若者×環境＝暮らしに根ざした未来」に関連した内容について本紙への連載の提案、⑥1社新規入会、1名退会の報告。会員数

は個人145、民間団体24、事業者26、行政1の計196 (理事長 小瀬博之)

社会環境部会

3月10日(金) 13:30-14:30

市役所地下修養室で社会環境部会の例会を開催。参加者は7名。

協議事項

- ①2022年度の社会環境部会の予算状況の確認と活動のふりかえり、
- ②第21回かわごえ環境フォーラムのふりかえり、
- ③2023年度の社会環境部会の活動計画について協議

(社会環境部会代表 増田知久)

自然環境部会

3月例会は10日(金)9名参加、4月例会は14日(金)11名参加、市役所地階修養室にて開催された。

1. 活動報告

- ①「(仮称)川越市森林公園」計画地 定例活動 2月13日(月)参加者12名、2月27日(月)参加者20名 巣箱の点検、3月13日(月)参加者13名 林内観察、3月27日(月)参加者18名 シュンラン



新設した巣箱

の森手入れ、②池辺公園定例活動 3月14日(火)参加者8名 アズマイチゲ開花数確認 272花、③生き物調査小委員会2月17日

(金)参加者10名 福原公民館、④巣箱づくり2月16日(土) 栗原造園にて2名参加4個新設、⑤生き物調査研修会3月17日(金)参加者10名 ウェスタ川越 講師:牧野彰吾氏、⑥生物多様性講座～かわごえの植物をたずねて～3月25日(土)9:30-12:00 川越南文化会館(ジョイフル) 講師:牧野彰吾氏 参加者20名 雨天だったので 野外観察のかわりに牧野氏の植物の進化や花の構造などのお話。面白く好評だった。(川越市主催、本会協力)

2. 協議事項

来年度の計画を話し合った。生き物調査は環境の特性に応じて行い、入間川流域などにもトライする。観察会やイベントについて日程などを検討した。

(自然環境部会代表 賀登環)

予告・募集

会合

- 社会環境部会(第2金曜日) ①5月12日・②6月9日(金) 13:30-14:30
- 自然環境部会(第2金曜日) ①5月12日・②6月9日(金) 14:30-16:00
- ◆事業運営委員会 ③5月17日・④6月14日(水) 9:00-10:00
- ◆理事会 ③5月17日・④6月14日(水) 10:00-11:30
- ◆広報委員会 ⑤5月10日・⑥6月7日(水) 9:00-9:30
- ★「川越市内の川の水質調査」事前説明会 ⑦5月27日(土) 9:30-10:00
- 総会 ⑦5月27日(土) 10:00-11:30
- 懇親会 ⑧5月27日(土) 12:00-13:00
- ごろ、参加費1,500円、事前申込必要
- 会場: ①③川越市役所7階7C会議室(川越市元町1-3-1)、②④川越市役所7階7E会議室、⑤⑥オンライン(URLは委員に別途案内)、⑦川越市立博物館(川越市郭町2-30-1)視聴覚ホール、⑧総会会場周辺の屋外(予定)

*①②は会員が自由に参加できます。

自然環境部会の活動

- ★A「(仮称)川越市森林公園」計画地 植物調査・保全活動(毎月第2・第4月曜日) 5月8・22日, 6月12・26日, 7月10・24日(月) 9:30-12:30 集合: 川越南文化会館(ジョイフル)(川越市今福1295-2)
- ★B池辺公園定例活動(毎月第2火曜日) 5月9日, 6月13日, 7月11日(火) 9:30-12:00 場所: 池辺公園(川越市池辺1302)
- ABの問い合わせ先: 賀登(Tel.049-234-9366)
- ★C社寺林の観察会 6月17日(土) 9:30-12:00、喜多院・中院の樹木を中心に観察、25名募集、参加費200円
- ★D田んぼの生き物調査 7月1日(土) 9:30-12:00、かわごえ里山イニシアチブと共催、25名募集、参加費500円
- ★Eキノコの観察会 7月9日(日) 9:30-12:00、(仮称)川越市森林公園計

画地、25名募集、参加費200円
申込先: ①②は6月2日(金) 10:00から、③は6月9日(金) 10:00から電話で環境政策課(Tel.049-224-5866)

広報委員会

2023年7・8月号(No.192, 7月1日発行) 原稿募集(会員対象)

提出期限: 6月8日(木)

提出方法: 原稿(テキストデータ、図表)と写真等の画像(解像度の高い元データ)は電子データで編集担当共有のメーリングリスト(koho@ml.kawagoekankyo.net)に送付。メーリングリストは事前登録が必要。未登録の方は広報委員会メール(koho@kawagoekankyo.net)に問い合わせを。メールを使用していない方は、かわごえ環境ネット事務局(環境政策課、川越市役所本庁舎5階)に提出。

本会「ホームページ」「note」への投稿 会員であれば随時対応します。koho@kawagoekankyo.netへご連絡を。

NPO 法人かわごえ里山 イニシアチブ

増田純一 (E-mail: hatsukarinosato@googlegroups.com, Tel.070-5599-2623)

近況報告

4月3日(月) 高校生のための探求学習を行いました。これは高大連携の一環として農作業体験を通しての環境学習、なりたい自分探しやコミュニケーション能力を育てるために月2回行うものです。



マコモ株分けの要領を学ぶ高校生

予告

川越市福田の田んぼでは5月連休中ストロベリーキャンドルで田んぼは花いっぱいになります。田んぼを自由開放します。お弁当を持ってお出かけください。

Facebook <https://www.facebook.com/kawagoesatoyama>

HP <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

福原ファームクラブ

横山三枝子 (Tel.049-246-9319)

予告

◎**おいしく・楽しく農業体験** 場所: 明見院(川越市今福677) 近く、会費: 家族1,000円(年間)、**1** 5月13日(土) 9:30-12:30 ごろ 大根畑の片付け、**2** 6月10日(土) 9:30-12:30 ごろ 大根・ニンジン畑の片付け

川越フォレストクラブ

賀登環 (Tel.049-234-9366)

報告

3月8日(水) は「リョウブの森」のヒサカキ、シラカシなどの照葉樹をかなり片づけました。

予告

◎「(仮称)川越市森林公園」計画地「リョウブの森」の手入れ 5月10日(水) 8:30-12:00 集合: 川越南文化会館(ジョイフル)、「(仮称)川越市森林公園」計画地で、動力班と手作業班で効率よく、かつ植生に配慮した手入れを行っている

ます。奇数月の第2水曜日が活動日です。



3月8日 作業の合間に

こもれびの森・里山支援隊 (東洋大学小瀬研究室)

小瀬博之 (E-mail: hkose@toyo.jp, Tel./Fax.049-239-1532), <https://www.toyo.ac.jp/social-partnership/satoyama/>

報告

3月4日(土) はコナラ枯損木を伐倒。周囲にある伐採木の朽ちた積み木を片付けたところ、カブトムシの幼虫を多数発見。4月15日(土) は4年ぶりのキノコの菌打ちを、雨天のため屋根下で実施。



カブトムシの幼虫を多数発見 (3月4日)



キノコの菌打ちの様子 (4月15日)

予告

◎**里山林保全活動** **1** 5月20日(土) 8:30-16:00、**2** 6月24日(土) 8:30-16:00、場所: 東洋大学川越キャンパス(川越市鯨井2100)、定員: 15名(高校生以上、事前予約必要)、作業: 枯損木の伐倒、林床の下刈り、希少植物の保護など(2は既参加者向け研修の予定)。3年3か月ぶりに一般参加者の募集を再開します。詳細はこもれびの森・里山支援隊ホームページをご覧ください。

公益財団法人埼玉県生態系保護 協会川越・坂戸・鶴ヶ島支部

内野 (Tel.049-222-1731)、当日の携帯電話連絡 (Tel.090-7003-8617)

予告

◎**伊佐沼でバードウォッチング**(毎月第2日曜日) 集合: 10:10 伊佐沼西岸蓮見橋近くのあずまや

1 5月14日(日) 10:10-12:00 5月10日からバードウィークです。鳥たちの子育てをじゃましないように、静かに観察します。

2 6月11日(日) 10:10-12:00 夏鳥が揃って出迎えます。オオヨシキリ、コアジサシなどです。いつもいるカイツブリ、カルガモは子連れです。

◎**川越水上公園自然観察会** **3** 5月6日(土) 9:00-12:00 集合: 川越水上公園(川越市池辺880) 入口ロータリー。池周囲、入間川土手、入間川河川敷遊歩道を野草を中心に観察をしながら散策します。

123 共通 雨天中止、持ち物: 飲み物・筆記用具・あれば観察用具(双眼鏡・ルーペ・図鑑など)、参加費: 一般300円、高校生以下100円(保険代・資料代)

個人会員からのおしらせ

松岡壽賀子さん(社会環境部会)

高階南公民館 (Tel.049-245-3581)

予告

◎**かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」** 会場: 高階南公民館(川越市藤原町23-7)、参加費: 無料。持ち物: 直近2~3か月分の光熱水費料金票。参加されたみなさんと身体や環境に負荷の少ない取組や暮らし方など、井戸端会議のようにお話ししています。知って、その後を豊かに楽しめましょう。1人でも多く動いたら減災・防災につながります。

1 5月17日(水) 10:00-11:30(コミュニティスペース)「電気の使用量を減らすには」暑くなる前に、暑さ対策と健康のためにできること。

2 6月12日(月) 10:00-11:30(コミュニティスペース)「生ごみの活用術」ちょっとした工夫や調理の仕方、ごみを減らそう。

6-8ページの記号凡例

★: 本会主催・後援等一般公開行事 ●: 本会会員対象行事 ◆: 本会理事・委員対象会合 ◎: 本会会員等主催のイベント等 ○: その他(個別記事参照)

2023年5月

1	月
2	火
3	水 憲法記念日
4	木 みどりの日
5	金 こどもの日
6	土 ◎ 9:00 川越水上公園自然観察会
7	日
8	月 ★ 9:30 (仮称) 川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
9	火 ★ 9:30 池辺公園保全活動
10	水 ◎ 8:30 「(仮称) 川越市森林公園」計画地雑木林の手入れ ◆ 9:00 広報委員会
11	木
12	金 ● 13:30 社会環境部会 ● 14:30 自然環境部会
13	土 ◎ 9:30 おいしく・楽しく農業体験
14	日 ◎ 10:10 伊佐沼でバードウォッチング
15	月
16	火
17	水 ◆ 9:00 事業運営委員会 ◆ 10:00 理事会 ◎ 10:00 かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
18	木
19	金
20	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」里山林保全活動
21	日
22	月 ★ 9:30 (仮称) 川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ★ 9:30 「川越市内の川の一斉水質調査」事前説明会 ● 10:00 2023 年度総会 ● 12:00 懇親会
28	日
29	月
30	火
31	水

2023年6月

1	木
2	金 ○ 10:00 「社寺林の観察会」「田んぼの生き物調査」参加受付開始
3	土
4	日 ★ 午前 川越市内の川の一斉水質調査
5	月
6	火
7	水 ◆ 9:00 広報委員会
8	木 ○ 本紙 2023年7・8月号 (No.192) 原稿投稿期限
9	金 ◎ 10:00 「キノコの観察会」参加受付開始 ● 13:30 社会環境部会 ● 14:30 自然環境部会
10	土 ◎ 9:30 おいしく・楽しく農業体験
11	日 ◎ 10:10 伊佐沼でバードウォッチング
12	月 ★ 9:30 (仮称) 川越市森林公園計画地植物調査・保全活動 ◎ 10:00 かんきょうサロン「健康と環境とお財布にやさしい生活術」
13	火 ★ 9:30 池辺公園保全活動
14	水 ◆ 9:00 事業運営委員会 ◆ 10:00 理事会
15	木
16	金
17	土 ★ 9:30 社寺林の観察会
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土 ◎ 8:30 東洋大学「こもれびの森」里山林保全活動
25	日
26	月 ★ 9:30 (仮称) 川越市森林公園計画地植物調査・保全活動
27	火
28	水
29	木
30	金

インターネットアクセス (QRコード)



ホームページ



Twitter



Facebook



Instagram



YouTube



note



←かわごえ里山イニシアチブ
こもれびの森・里山支援隊→



入会案内

かわごえ環境ネット会員募集

かわごえ環境ネットでは、個人会員、団体会員を随時募集しています。年会費は個人会員1,000円、団体会員2,000円です。

会員特典

- 1 本紙「広報かわごえ環境ネット」や各種おしらせを郵送・電子メールでお届け、
- 2 本紙及び本会インターネットへの記事の掲載、チラシの同封、
- 3 本会主催の事業への優先参加、
- 4 総会、専門委員会活動への参加

詳細

かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)に問い合わせるかWebサイト(<https://kawagoekankyo.net>)をご覧ください。

おことわり 本紙の記事は、各著者の寄稿及び広報委員会の編集によって構成されていますが、これらは、組織の公式な見解を示すものではありません。また、本紙は寄稿及び作成時点までの信頼できる各種情報に基づいて作成し、正確性の確保に努めていますが、その正確性に対してかわごえ環境ネットは責任を負いません。本紙は読者ご自身の判断と責任で利用いただき、本紙を利用することで生じたいかなるトラブルおよび損失、損害に対して、かわごえ環境ネットは一切責任を負いません。

広報 かわごえ環境ネット
2023年5・6月号
No.191

発行日：2023年5月1日 編集・発行：かわごえ環境ネット 広報委員会
事務局：川越市環境部環境政策課 350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1
Tel.049-224-5866 (直通) , Fax.049-225-9800, E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoie.lg.jp
かわごえ環境ネットホームページ <https://kawagoekankyo.net>